

第 241 回 昭和の森観察会

見られたらいいね あこがれのオオタカ

田邊裕美（大網白里町）

日 時：2012 年 1 月 8 日（日）13～15 時

参加者：子ども 2 名 大人 36 名 指導員 19 名 計 57 名

担当指導員：木下順次 田邊裕美 藤田英忠

2012 年が明けて間もない 1 月 8 日、昭和の森にて定例観察会が行われた。1 月の観察会は例年通り「野鳥の観察」であるが、今回は猛禽類をテーマとし、「見られたらいいね、あこがれのオオタカ」とオオタカをテーマの中心とした。昭和の森ではかなり高い確率で猛禽類を目撃することができ、昨年 1 月の定例観察会でもオオタカを観察できていたが、観察会当日に猛禽類を目撃できるかどうかは運しだい！ 少々冒険でもあったが、生態ピラミッドの頂点に立つ猛禽類はぜひ取り上げたいテーマであったし、アピール度も高いと判断し、猛禽類の中でも知名度の高いオオタカを今回の観察会のテーマとした。

観察会では、まず藤田担当が以前新潟で行っていたオオタカの子育ての観察を話題提供し、参加者全員に写真パネルを用いてオオタカのカップリングや営巣、子育てについて解説を行った。巣はオスが準備することや毎年修繕しながら使い続けること、メスにエサをプレゼントすること、オオタカの巣に小鳥が同居することなど、実際に観察を行っていた者の強みを生かした解説で、参加者も興味深げな様子であった。

その後 3 班に別れ、いよいよコースを回り始めたが、寒すぎるのか、事前の下見でも鳥は例年より少ない様子。担当は内心冷や冷やであったが、小中の池を一望できるポイントで、それぞれ別の班がチョウゲンボウとオオタカを観察することができた。参加者の方に小中の池の側にオオタカが営巣をする木があることを教わり、色々な方と情報交換ができる観察会の意義を改めて実感した次第です。

運よくオオタカを観察できた 3 班の参加者の感想です。

- 1) オオタカを観ることができたので、とても有意義な一日だった。
- 2) オオタカを観ることができて、ラッキーだった。
- 3) カワセミを観られてよかった。
- 4) カワセミの写真を撮ることができた。
- 5) 楽しかった。
- 6) 楽しかった（子ども 2 年生）
- 7) オオタカは思ったより小さく見えた。
- 8) オオタカ 1 羽生存で 1, 100ha の緑が必要と聞いて、緑を大切にしなければならないと思った。
- 9) いい勉強になった。今度は少し自然のことを調べてから観察会に来たい。
- 10) 初めて参加したが、面白いことをやっているなと思った。



冬季の野鳥観察は夏と違って早起きが必要ではないが、やはり午前中と午後では見られる鳥の数が違う。より参加者に満足してもらえる観察会にするためにも、野鳥の観察会は一般も午前中に行えるようにできないものかと思う担当でした。